

二〇二二年度

入学試験問題

(二月一日午前)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙六ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事があるときは、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① ① こういう問いを本書のなかに滑り込ませることが、はたして許されるのかどうかはわからない。ただ、私としては、やはりどうしてもこの問題を取り上げておきたかった。

この問いは昆虫、そして人間について考えていくうえで、とても重要で基本的な問いだからだ。また、こうした問いに対する答えは通常、主観的にならざるを得ないと考えられがちだが、生物学的な観点に立てば、きわめて客観的に答えることができるからだ。

この問いは主語を変えて、私たちの日常生活のなかにもしばしば現れる。「人間にとって生まれてきた目的とは何か?」というように。ある昆虫種に対して、「生まれてきた目的は何か?」と問うとき、その答えは、「何かの目的のために生まれてきたわけではない」である。この世に、ある昆虫種が生まれてきた生物学的目的など、どこにもない。生まれてこなくてもまったくかまわなかったのだ。

一方で、その種が生まれてきた生物学的原因はたしかにあるだろう。たまたま新しく生じたニッチで生きていけるような特徴を持つ変異があった、あるいは先住者によって占められていないニッチでも生きていけるような変異が生じてきたために、その変異を起点として新しい種が生まれてきたのだ。それは、「この種はどのよう^②に生まれてきたのか?」という問いに対する答えでもある。

以上のことは、すべての昆虫種において成り立つ。昆虫というグループ自体、生まれてこなくてもぜんぜんかまわなかったのだ。昆

虫が生まれていなければ、別の生物種がいま昆虫たちが占めているニッチを占めていたことだろうし、それはそれで全然、何の問題もなかったはずだ。昆虫が生まれてきたのは単なる偶然によるもので、昆虫が生態系にとって、そして地球にとって不要であったから生まれてきたわけではけっしてない（地球全体を、あたかもひとつの生命体であるかのごとくみなすガイア仮説の支持者などは、こうした考え方を否定するかもしれない）。

人間という種に関しても、同じことがいえる。人間という種が生まれてきた目的とは何か、という問いに対する答えは、「何かの目的のために生まれてきたわけではない」である。人間という種が生まれてこようがこまいが、それはどうでもいいことだった。たまたま生まれてきただけにすぎないのだ。六五〇〇万年前、ユカタン半島付近に巨大な隕石が落ちていなければ、人間の代わりに、いまも恐竜が生物界の頂点に立っていたかもしれない。もしそうだったとしたら、今日見られる「完新世の大絶滅」は起こるはずもなかった。現存する人間以外の生物の多くにとっては、人間など生まれてこなかったほうが、ずっとよかったに決まっている。

② ② こういう考え方を突き詰めていくと、生物そのものについても、それが生まれてこなければならなかった必然性など、まったくどこにも存在してはいないことがわかる。

昆虫も人間も、その他すべての生物種は、偶然に生まれてきて、そしてその後、現在にいたるまで、種を維持できる^③メカニズムを備えていたから生きていくにすぎない。そしてまた長い年月を経て、

いま生きている生物種のほとんどが滅びたところには、いまとはまったく別の生物たちがこの地上に現れていることだろう（多細胞生物種の「種」の寿命は長くてもせいぜい数百万年ほどだ。もっと長い種もいるが、平均寿命は一〇万年ともいわれている。ちなみに人間が誕生してすでに二〇万年あまりが経過している）。そしてそのときにも、彼らが生まれてこなければならなかった必然性などどこにもないし、新しい種が進化する代わりにすべての生物種が減びてしまったとしても、それに異議を唱えることはできない。

つぎに、種ではなく個体に関してこの問いを向けてみよう。その場合の答えは、昆虫であろうが、人間であろうが、生物学の立場からいえば、「種を維持するため」である。すべての生物種の個体にとって、その答えはただひとつ、「種を維持するため」である。

この状況を作りだしているものは、私たち生物の（ ）だ。なかには、種の維持に寄与することのない個体だつてたくさんいる。けれどもそういう個体でも自ら進んで種の維持に寄与しなかったわけではない。何か理由があったからにちがいない。そこそのこの歳になれば、昆虫だろうが人間だろうが、ともかくも繁殖するためには生まれてきたということが切実にわかってくる。社会性昆虫のワーカー（例：ミツバチの働きバチ）や単為生殖を行なう昆虫（例：アブラムシは主に単為生殖で爆発的に増殖する）などを除いて、多くの昆虫の個体はひたすら交尾の相手を捜し、なんとか交尾を成功

させ、子孫を残そうとする。知らず知らずのうちに各個体は繁殖、すなわち種の維持という「人生の目的」めがけて驀進していく（ここでひとつだけ注意しておきたいのだが、生物学的には「種を維持するため」に生まれてきたとはいえず、それだけが人生の唯一の目的ではない。各人は各人の意思で、自らの人生の目的を定めることができる。ただ、それは生物学的な意味での目的とは異なっているということだ）。

あるとき私は、沖縄北部にあるヤンバルの森のなかで、倒木に白いキノコがべつとりと付いているのを見つけた。顔を近づけてよく見ると、キノコの表面を無数のキノコカスミカメが走りまわっている。さらに注意して見れば、大きな雌の幼虫が、その背中に小さな雄の成虫を乗せて走りまわっていた（雄は雌の半分くらいの大きさしかない）。雄の成虫が雌の幼虫と交尾していると思ひ込んだ私は大いにあわてたが、のちにカスミカメの研究、安永智秀博士が詳しく観察し、じつは雄が雌の幼虫に乗って雌を確保し、雌が成虫になるのを待っていることが明らかとなった。④「そこまでするのか……」と、それを聞いた私はため息が出てきた。

しかし、昆虫にせよ、人間にせよ、じゃあ、というわけでせつせと繁殖にいそしんでいさえすれば、何の心配もないというわけではない。なぜならば、昆虫にせよ、人間にせよ、繁殖その他の生命活動を指示する本能自体が、時代とともにどんどん旧式になっていくからだ。人間について考えてみても、その生活は日々変化しているが、人間の本能自体は、人間という種が生まれた当時のまま、本質

的には何も変わっていない（人間の側で変わっているのは、環境変化に対する反応のしかたであって、これは本能に基づいている。決して本能自体が変化しているわけではない。しかしそうした反応の変化で凌いでいく方法も、いつかは限界にたどり着く）。

資源も未来もまだ無限とあってよかった時代を背景として生まれた私たち生物の本能は、いままなお当時と同じ指令を出しつづけている。ところがいま、あらためてあたりを見まわしてみれば、資源の無限性、環境の不変性という、私たちが持つ本能が成立したときの⑤前提条件そのものが、人間による環境改変によって大きく崩壊しはじめている。

今後も生物があるがままでありつづけようとするかぎり、すなわち資源も未来もまだ無限とあってよかった時代を背景として生まれた本能を持ちつづけるかぎり、生物はさらなる窮地と苦悩とに追い込まれていくだろう。

私たちはいったいどうしたらいいのだろうか？

その答えを本能に尋ねることはできない。本能はかならずや現代の危機的状況など無視しようとするからだ。どちらがいいというものでもないが、本能の世界に没入することによって、人間の運命からできるだけ目を逸らせて一生を送るのか（人間の一生はそれを可能とさせるほど十分に短い）、それとも人間の運命をありのまま正面から受け止めるかで、個人の生き方は大きく変わってくる。

⑥ 人間の本能は、人間にとって大きな重荷となりつつある。とても大きく大きな重荷だ。それは人間以外の、昆虫を含めたすべての

生物種にとっても同じことだろう。時間の経過のなかで環境は徐々に、あるいは急速に変わっていき、それにつれて彼らが持つ本能も、彼ら自身にとっては重荷以外の何ものでもなくなっていく。そうしてやがて本能と現実との乖離があまりにも大きくなると、その種は滅び、別の種が繁栄したり、新しい種が誕生したりしてくる。

人間から新しい種が誕生してくるのかどうかは、だれにもわからない。もしかすると人間は完全に滅び去り、その代わりにネズミの一派が、彼らが現在持つ知能をそのまま用いて十分に繁栄していくのかもしれない。あるいはまた、私たちが生まれた新しい種が、私たちがもう暮らすことのできない新しい環境のなかで、もつとまわっていくのかもしれない。

人間は他人（他種）のことは見当がつくけれども、自分自身のこととは本能（欲望）のフィルターが邪魔をしていて、見当がつかない。これなども、日常生活のなかで経験する、よくある話のひとつとっていいだろう。

（高橋敬一『昆虫にとってコンビニとは何か？』より）

（注）ニッチ：生態的地位。生息場所。

問一 — 線部①「こういう問い」とありますが、どのような問いですか。自分で考えて二十字以内の一文で答えなさい。

問二 本文中には、間違^{ちが}った単語が使われていて文意が正しくない箇所^かが一つあります。「以上のことは、」で始まる段落の中からその単語を抜き出し、正しい対義語を答えなさい。

問三 — 線部②「こうした考え方」とありますが、どのような考え方ですか。簡潔に答えなさい。

問四 — 線部③「メカニズム」とありますが、どのような意味ですか。自分で考えて三字の言葉で答えなさい。

問五 本文中の には、次のア～カの文が入ります。文意が正しくなるように並び替^かえて、記号で答えなさい。

ア それによると、太陽はやがて膨張^{ぼうちょう}を始め、それにとまって、地球表面は一〇億年以内にはなほだしい高温状態となる。

イ このころには、地球はすでに燃えかすのようになっていくことだろう。

ウ 太陽くらの質量の星がどのような運命をたどるのは、天文学によって解き明かされている。

エ さらにおよそ五〇億年後になると、太陽は水星と金星を飲み込んだあげくに地球の軌道^き付近まで膨張してくる。

オ もっともそういうことは、やがて起こる太陽の膨張による以外、起こりそうにもない。

カ その結果、一部の細菌^{きん}を除いて、生物は全滅する。

問六 本文中の（ ）にあてはまる漢字二字の熟語として最もふさわしいものを、本文中から抜き出して答えなさい。

問七 —線部④「『そこまでするのか……』と、それを聞いた私はため息が出てきた」とありますが、この時の筆者の気持ちを説明しなさい。

問八 —線部⑤「前提条件」とありますが、それは何ですか。本文中から十三字で抜き出して答えなさい。

問九 —線部⑥「人間の本能は、人間にとって大きな重荷となりつつある」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしい部分を、本文中から二十六字で抜き出し、その最初と最後の五字を答えなさい。

問十 —線部「『人生の目的』」とありますが、あなたにとってそれは何ですか。その達成のために、今後どのように生活していくかと考えますか。二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

センキユウヒヤクロクジユウヨネントウキョウゴリ
ンノキロクエイガノサイゴニハセカイノヘイワヲユ
メデハナクジツゲンシヨウトイウミライヘノデンゴ
ンガアリマシタ。ソレカラゴジユウシチネンニホン
デニドメノカキゴリンハジツゲンシマシタガラソ
イハタエズヘイワハマダユメノママデス。コンゴニ
ムケテサラニゲンジツノケンシヨウトドリヨクヲツ
ツケテイクベキデス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 西洋の学問が入り、日本の文化に風穴を開けた。
- (2) せつかくの満月が群雲にかくれる。
- (3) 目をさます前に見た夢は正夢だという人もいる。
- (4) やかん・なべ・ハサミは金物だ。
- (5) 白子干しは、私の大好物だ。
- (6) 兄は父よりもウワゼイがある。
- (7) インフルエンザのヨボウ接種をする。
- (8) 絵がサカサマにかかっている。
- (9) 夏の優勝のヨセイをかって秋の大会にも優勝する。
- (10) 友人の迷いをサます。

四

次の(1)～(5)の各文の()の中に、例に従って、様子を表す同じ二音を繰り返す言葉を、ひらがなで答えなさい。

例 勉強不足を(ひしひし)と感じる。↓「ひ」「し」の二音を繰り返して「ひしひし」

- (1) 花びらが()と舞う。
- (2) 小雨が()と降る。
- (3) 風で木の葉が()と鳴る。
- (4) 小さい子供が()と歩く。
- (5) 希望で目が()と輝く。

